

浜通りにおける「ふくみらい」の施肥法と生育目標

福島県農業試験場 相馬支場
平成13～15年度福島県農業試験場試験成績概要
分類コード 01-01-13260000

部門名 水稲－水稲－施肥法、収量構成要素

担当者 島宗知行・吉田直史

I 新技術の解説

1 要旨

- (1) 浜通りにおいて「ふくみらい」の玄米等級1等を確保するための収量水準は60kg/aで、窒素施肥体系は、基肥0.5kg/a＋減数分裂期追肥0.2kg/aが適当である(表1)。
- (2) 籾数3.3万粒/㎡程度で、玄米等級1等、登熟歩合80%を確保できる(図1、2)。籾数3.3万粒/㎡を目標とした場合の穂数は430～450本/㎡、幼穂形成期の茎数は650～670本/㎡程度となる。
- (3) 倒伏を避けるため、稈長は88cm以下に抑える。目標稈長を88cm以下とした場合、幼穂形成期の草丈は65cm以下が目安となる(表2)。
- (4) 収量60kg/a、玄米等級1等を確保するための、生育目標は表2のとおりである。登熟期間中の気象変動が大きい浜通り地方で、良質な「ふくみらい」を生産するためには、籾数過多を避けて、登熟歩合を高める必要がある。

2 期待される効果

浜通り平坦部において「ふくみらい」の高品質、安定生産が図られる。

3 適用範囲

浜通り平坦部

4 普及上の留意点

登熟期間の天候が不良な年は、追肥によって、乳白粒・青未熟粒が増加し、品質低下を招くことがある。登熟期間の天候不良が予想される場合は、追肥を控える。

II 具体的データ等

表1 施肥法と成熟期の生育、収量（2001年）

窒素 施肥法 (kg/a)	成熟期			倒伏 程度 (0-400)	精玄 米重 (kg/a)	粒数		屑米 比率 (%)	登熟 歩合 (%)	千粒重 (g)	玄米 品質 (1-10)
	穂長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)			1穂 (粒)	m ² 粒数 (百粒)				
0.5- 0 - 0	82.0	17.7	495	0	59.6	69.1	342	8.0	75.7	20.5	2.0
0.5-0.2- 0	87.1	18.8	489	24	60.8	78.9	388	9.8	71.0	20.7	3.3
0.5- 0 -0.2	85.9	18.6	468	16	61.8	75.1	351	9.2	74.9	20.7	2.3
0.7-0.2- 0	88.3	19.5	535	168	59.3	79.9	427	11.1	67.5	20.3	3.0
0.7- 0 -0.2	88.4	18.8	499	184	57.5	74.1	370	12.0	71.6	20.4	3.5

注) 窒素施肥法：基肥－幼穂形成期追肥－減数分裂期追肥

玄米品質は福島食糧事務所原町支所〔現：福島農政事務所地域第3課（原町）〕による10段階評価〔1（1等上）～9（3等下）、10（規格外）〕

表2 ふくみらい良質米生産のための目標と時期別生育量

目標とする収量、品質 登熟歩合	収量：80kg/a 検査等級：1等 登熟歩合：80%
成熟期の目標生育量	穂長：88cm以下 穂数：430～450本/m ² 粒数：3.3万粒/m ² 千粒重：20～21g
幼穂形成期の目標生育量	草丈：65cm以下 茎数：650～670本/m ² 葉色（SPAD502）：38～40

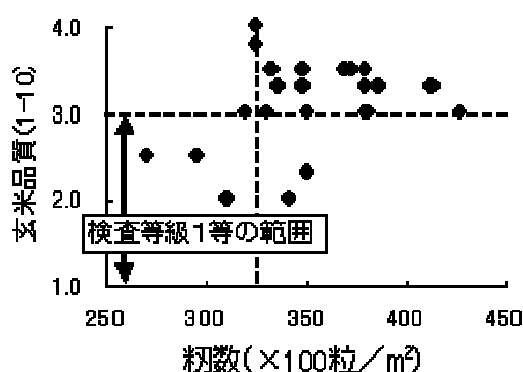


図1 粒数と玄米品質(2001～03年)

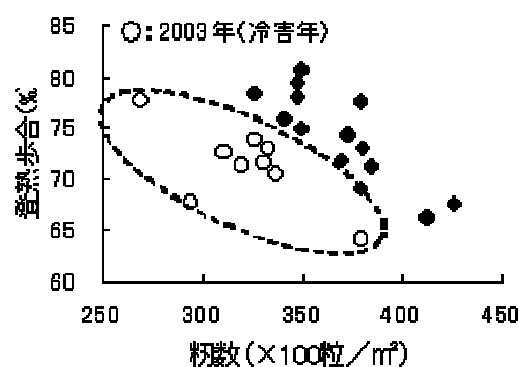


図2 粒数と登熟歩合(2001～03年)

Ⅲ その他

1 執筆者

島宗知行、吉田直史、佐藤 誠

2 主な参考文献・資料

なし